

No. 966

特 集

4 7. 7 豪 雨

7月9日以来、日本列島上空にとどまって多くの被害をもたらした豪雨は、12日さらに関東東海地方にも強い雨域を広げた。集中豪雨を受けた神奈川県下の西丹沢の被害は大きく12日午前0時から午後1時までの13時間に780ミリという驚異的な雨量を記録した。

中でも酒匂川上流の簗沢部落は29戸中15戸が流失、または埋没して4人が行方不明、ほぼ壊滅状態に陥いった。ヤマユリの咲く西丹沢の山あいは、荒れ果てた石の原っぱに変わり果て谷間をぬって走る道路はズタズタに切断され、酒匂川の濁流がぶつかる断がいの道路は跡形もなく流失した。何百年も続いてきた部落はふたかえもある巨石に埋まり、自然の恐ろしさを水害は目のあたりに見せつけた。

また小原和紙で知られる愛知県西三河山間部は一時全滅を伝えられたが救援隊によって無事を確認された人が多かった。しかし山あいに並んだ部落は土砂に埋まり民芸の里は無残な姿をさらした。木村建設大臣も早速現地に飛び、復旧の対策を約したが、被害はあまりにも大きかった。

梅雨前線による雨中豪雨は一週間以上も各地で暴れ回り、山津波、ガケくずれなどの大きな被害をもたらし死者、行方不明、じつに400人をこえ、被害地も全国的におよんだ。急激に開発が進められる国土に対応する防災対策の重点をどこにおくべきか。また短期、長期の防災計画についての再検討など取組まねばならない課題があるはずである。しかも、それを災害がおきるたびに弁解するのではなく、確実に実行に移してほしいものだ。